

誰もが誰かのサンタになれる。

10 H₂O サンタ

チャリティー活動報告



ご縁

一般財団法人H2Oサンタは、設立から丸10年を迎えました。まもなく100周年を迎える、阪急うめだ本店から始まった小さな活動は、みなさまからのあたたかなご支援に支えられ、おかげさまで累計寄付額は2億円、イベント参加者数は33万人を超える規模へと成長いたしました。心より深く御礼申し上げます。

日々この活動に向き合う中で、私たちは、人と人とのつながりの奥深さや、善意が持つ目に見えない力を改めて実感する瞬間があります。

先日、私たちのイベントをきっかけに、あるNPOへ寄付をされた方がいらっしゃいました。そのNPOのスタッフが寄付者の住所を登録した際、昭和30年代の古い台帳に、近隣の住所で同じ珍しい姓を持つ過去の記録が残されているのを見つけたそうです。確かめたところ、それはご本人もご家族も知らなかった、お祖父様による当時のご寄付の記録だったのです。全国に数あるNPOの中から、時を経て同じ場所に世代を超えた善意が届いたという事実は、私たちにとっても大きな驚きでした。善意は、一過性のものではなく、時代を超えて未来へ受け継がれていく力を持っている——そう教えられた気がして、これからの活動への大きな励みとなりました。

H2Oサンタの活動現場では、さまざまな出来事に遭遇します。その度に、ものごとを分かった「気になっていた」自分に気づかされ、世の中の人と人とのつながりの尊さをさらに深く知る連続です。その経験自体が私自身の成長となり、「次はどんなお手伝いができるかな?」と思える、前向きな原動力になっています。

H2Oサンタの合言葉は「誰もが誰かのサンタになれる。」この言葉を大切に、これからもみなさまと共に、こうした素敵なご縁を未来へつないでまいるしたいと思います。

今後ともあたたかいご支援をよろしくお願い申し上げます。

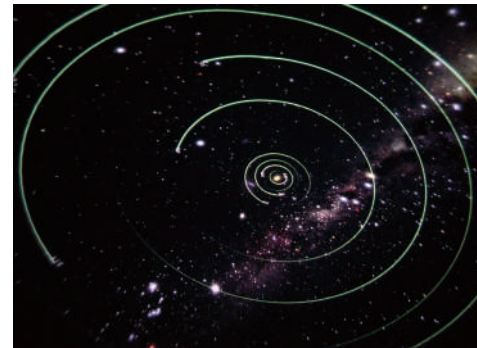


一般財団法人H2Oサンタ
事務局長 外間孝次

病院に広がる星の世界 誰かで見上げるぬくもりを

H2Oサンタは、こどもたちを取り巻く社会問題の実態を把握するため、定期的にこども支援の現場を訪ね、専門家や社会貢献団体の方に取材を行っています。今回は、移動式プラネタリウムで病院や特別支援学校などで過ごすこどもたちに星空を届ける「一般社団法人星つむぎの村」共同代表の高橋真理子さんにお話を伺いました。

取材・レポート：H2Oサンタ事務局長 外間孝次（取材協力：大阪市立総合医療センター 小児医療センター）



頭上に広がる星空を見上げる時間。それは私たちの日常の中にある、ささやかなひとときです。ですが、病院で長い時間を過ごすこどもたちが毎晩見上げているのは、夜の病院に広がる無機質な天井であることが少なくありません。治療や療養のために外に出ることが難しく、空の広さを感じる機会さえ限られているこどもたちもいます。そんなこどもたちが過ごしている、病院や特別支援学校、福祉施設などを訪れ、移動式ドームや天井への投影を

通して、美しい星空を届けているのが「一般社団法人星つむぎの村」です。

天井いっぱいに広がる星空を眺め、宇宙の奥深さにふれたこどもたちは、自分がどれほど大きな世界の中にいるのかを、いつもとは違う感覚で受け止めていきます。家族やきょうだいと同じ景色を見つめ、心を重ね合う時間は、色褪せることのない思い出のひとつとなります。星空を通して、時を超えて人と人をつなぐ。心にやさしく残り続ける体験を、全国各地へと広げています。

病院や施設で過ごす子どもたちへ 星空を届けるプラネタリウム

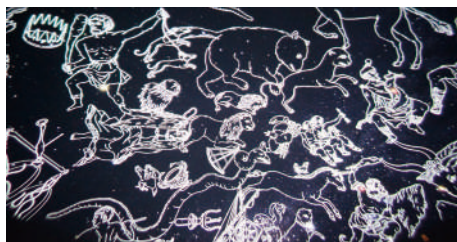


●活動内容を教えてください。

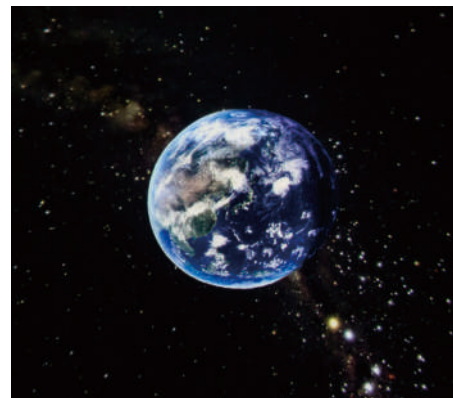
私たちは「星を介して人と人をつなぎ、ともに幸せをつくろう」をミッションに活動している団体です。病院や特別支援学校、福祉施設などへ星空を届ける出張プラネタリウムをはじめ、実際の夜空を見上げる星空観望会、星や宇宙に親しむワークショップなど、星と出会う機会を提供しています。星空を見上げる時間の中で、誰かと気持ちを分かち合ったり、自分自身と向き合ったり、そんなひとときを大切にしています。これまで全国各地からご依頼をいただき、活動をはじめて12年あまりですが、今では年間およそ250カ所の施設、2万人ほどの子どもたちやご家族に星空を届けてきました。この活動は、「宙先(そらさき)案内人」や「村人」と呼ばれる多くのボランティアメンバーで実施しています。

●活動が始まったきっかけは？

山梨県立科学館在職時に発足したボランティアグループ「星の語り部」でのワークショップがきっかけです。視覚障害を持つメンバーがいたこともあり、抱えるものや背景が異なっても、星空の下ではフラットになるのだな、と気づかせてもらいました。誰の上にも広がっている星空。その奥深さに触れるとき、自分たちが広い宇宙の中に生きていくちっぽけな存在であることに気づいたり、「みんな違って、みんな同じ存在である」と感じたりする瞬間があります。星を通して人と人とのつながりをつむぎながら、誰もが星空を感じられる時間を分かち合いたいと考えました。



広く深い宇宙にふれ いのちの尊さを感じる時間



●星空にはどんな力があると思いますか？

星空を見上げる時間には、人の心をやさしくほぐす力があると信じています。「明日がどうなるかわからない」という日々の不安や緊張の中にと、どうしても目の前のことに意識が向きがちですが、星を見上げた瞬間、視線は自然と空の向こう側へと広がっていきます。私たちの身体は、もとは星がつくった材料からできている。そんな「宇宙とのつながり」を知ったとき、子どもたちは「生きていることは奇跡なんだ」と、自らのいのちを肯定するようなエネルギーを受け取っていきます。たとえ違う状況にあっても、同じ宇宙の一部としてともに生きている。その感覚が、言葉にできないあたたかさとなって、静かに心に広がっていくのではないのでしょうか。

●子どもたちの反応はどうか？

「宙先案内人」の合図とともに、部屋は暗闇へ。パッと目を開ければ、降り注ぐような星空と、神秘的な宇宙に包まれます。子どもたちは「わぁ」と感動の声を漏らしたり、気になる星を指さしたり…。その受け止め方はさまざまですが、みんなで一緒に寝転び、同じ方向を見つめることで、それぞれの感動の気持ちが伝播し、あたたかな一体感が生まれていく瞬間を何度も目にしてきました。目を輝かせて星空を見つめる子どもの表情を見て、看護師・保育士さんたちが「こんな表情は初めて見ました」とおっしゃることもありました。星空に包まれる時間は、同じ空を見上げる安心感の中で心を解き放ち、広大な宇宙の中で生きるいのちの尊さに気づかせてくれるのです。



星空を見上げる経験が それぞれの心の支えとなる



●ご家族にとってはどんな体験に？

重い病気や障害のあるこどもと暮らすご家族は、日常の中でさまざまな制限を抱えています。外出や旅行が難しい状況の中、家族がそろって同じ体験ができる機会は多くありません。そんな中、病室に広がる星空を見上げる時間は、星空観賞を超えて「初めての家族旅行が宇宙だった」と思えるような特別な記憶へと変わっていきます。プラネタリウムでは障害の有無や年齢に関係なく、同じ星空を見上げ、同じ時間を共有することができます。また、オンラインでのライブ配信やオンデマンド配信を通じて、病室に入ることが難しいきょうだいや家族とも、離れた場所から同じ瞬間に同じ星を見上げる喜びがあります。こうして分かち合った体験は、それぞれの心の中で、やさしく輝き続けていきます。

●心に残っている出来事は？

プラネタリウムを体験した余命わずかな女の子が、「世界で一番最高! これで一年生きられる」と話してくれたことがありました。その言葉の通り、彼女はその後、その時間を懸命に生き、やがて星空へと旅立ちました。ご家族にとって一緒に星を見た記憶は、かけがえのない強い絆として残り続けています。また彼女が旅立った後、同じ病棟の闘病仲間にも星空を見せる機会がありました。仲間がいなくなったことに戸惑う様子を見せる中、星空を見上げることで「あの子はこんなことが好きだったよね」と、自然に思い出を語り合うことができました。星空を介して通じ合った記憶は、残された人々をあたたく支え続けていくのかもしれない。



同じ星空の下で 人と人がやさしくつながる社会



共同代表の跡部浩一さん(左)と高橋さん(右)

●ほかの活動も教えてください。

山梨県・八ヶ岳のふもとにある拠点には、「星つむぎの家」という宿泊施設があります。病気や障害のある方と、そのご家族に向けて「ここなら安心して来られるよ」と声をかけられる場所をつくりたいという想いから生まれました。貸しコテージのためそれぞれのペースで気兼ねなく過ごすことができ、部屋からすぐに出られる星見デッキからは、車いすやストレッチャーのままでも満天の星を楽しむことができます。日常から少し離れ、心が開放されるような特別な時間を過ごしていただける場所です。

●今後の目標について教えてください。

星つむぎの村が目指しているのは、同じ星空の下、共に生きる社会です。星空は本来、誰の上にも等しく広がっているもの。どんな場所や状況にあっても、誰かと一緒に星を見ることができ、機会を増やしたい。星空を見上げることで、自分が広い宇宙の中に生きている存在であることに気づき、誰かと同じ空を見ているという感覚が生まれます。その小さな実感の積み重ねが、人々との境界をやわらかくほどこき、やさしいつながりを育てていく。星を通して、そんな世界を少しずつ広げていくことが目標です。



自分も、そして周りの人たちも、みんな広い宇宙の一部で、小さな粒のような、同じ生き物なのだと思えさせられます。ふれた人の心がほどこき、自然と誰かにやさしくなれる。そんな素敵

なプラネタリウムをこどもたちへ届けてくださっています。全国に「星つむぎの村」の村人の輪が広がっていくよう、8月のNPOフェスティバルでもプラネタリウムを実施していただきます。

チャリティーの輪が広がっています

恒例のNPOフェスティバルの実施やロハスフェスタ®万博への出展に加え、地域の秋祭りに初出展するなどイベントを拡大し、社会貢献団体と地域のみなさまをつなぎました。

中央区民まつり

開催:2025年10月19日(日) 会場:史跡 難波宮跡(大阪市中央区)



秋の雨上がりの、中央区民まつり(大阪市)に初出展。曇り空の下、H2Oサンタのブースには1,200人を超える方々がお来場。「近所のスーパーでいつも見ていたサンタさんはこのサンタさんだったんだ」とお声を掛けてくださる方もおり、地域の方々へのこども支援の輪の広がりを感じることができました。



レポート:H2Oサンタ事務局 蒲生祥子



みらいのたからばこ2025in大阪

開催:2025年11月29日(土)・30日(日) 会場:インテックス大阪



大阪府下の小学生を中心に、2日間で2,600人を超える方々がH2Oサンタのブースにお立ち寄りくださいました。募金の際に「楽しんで、寄付できる良い取り組みですよ」という来場者も。チャリティー缶バッジ作りでは、学生ボランティアの方々にもお手伝いいただき、大変盛り上がりしました。



レポート:H2Oサンタ事務局 蒲生祥子



ロハスフェスタ®万博 2025 秋

開催:2025年11月8日(土) 会場:大阪・万博記念公園 東の広場



今回は阪急阪神百貨店、阪急オアシス、イズミヤの従業員ボランティアも一緒に、ブースを盛り上げてくれました。ブース内のNPOの活動紹介パネルをみると答えがわかる“NPOクイズ”には658名がご参加。全問正解者には、おうちに帰ってからもチャリティーの輪が広がるきっかけになるよう、H2Oサンタのマグカップやクリアファイルなどオリジナルグッズをプレゼントしました。



レポート:H2Oサンタ事務局 梅田 潔



たのしい、かんたん。

チャリティーパーク

2025年開催



2026年開催



開催:2025年12月13日(土)・14日(日) 会場:イズミヤショッピングセンター西神戸
開催:2026年2月21日(土) 会場:万博記念競技場「ちびっ子健康マラソン大会」

イズミヤショッピングセンターの mascot キャラクター“いずにゃん”も登場し、会場を盛り上げました。おもしろ募金箱にお父さんが感動し、こどもと楽しくあそびながら寄付してくださいました。

「ちびっ子健康マラソン大会」会場では、マラソン出場前後の小学生が立ち寄り、こども支援団体を紹介する“NPOクイズ”に1,111名が参加してくれました。



レポート:H2Oサンタ事務局 梅田 潔



第22回 NPOフェスティバル

開催:2026年2月25日(水)~3月2日(月) 会場:阪急うめだ本店 9階 祝祭広場



NPOフェスティバルとは?

世の中にまだ広く知られていない、子ども支援に取り組む社会貢献団体の有意義な活動をご紹介します。寄付を募るイベントです。



今回は15の社会貢献団体をご紹介します。開催期間中に出演したFM大阪の番組「こどもてらす~To Zero for Children~」の放送を聞いた方が会場に足を運んでくださり「こんな良いことを22回もやっていることを知らなかった。私もずっと子どもたちのために何かしたかった。ぜひ、応援させて」と賛助会員にご加入くださいました。また、今回初出展の不登校の子どもたちを支援している「NPO法人ここ」を利用している中学生へのインタビューでは、「たくさんの人

から支援してもらっていることを知った」と胸を張って応答する姿に、会場中が深い感動に包まれる場面もあり、心を通わせる貴重な機会となりました。

レポート:H2Oサンタ事務局 蒲生祥子



FM大阪「こどもてらす~To Zero for Children~」



こどもてらす
2/21放送分



こどもてらす
2/28放送分



NPO法人ここ

(不登校の子どもたちを支援)



理事長
三科元明さん
(写真左)
馬場しずかさん
(写真右)

「学校に行っている・行っていないにかかわらず、誰もが受け入れられ、自立できる社会を作る」というビジョンを掲げ、不登校・苦登校・ひきこもり・高校を中退した子どもたちの居場所を作るために、フリースクールを開いています。学校に行けなくなることは何も特別なことではなく、日本の不登校のこどもの数は増え続けています。自分の住む地域の中に学校に行けない子どもがたくさんいるという状況を知っていただき、より多くの人の協力のもとでこどもたちの成長を支えていくことができると考えています。

一般社団法人ソーシャルアクションジャパン

(誰もが野球を楽しむ機会を提供)



代表理事
内多勝康さん

私たちは、重い病気や障害があってもテクノロジーの力で選手として活躍できる「ウルトラ・ユニバーサル野球大会」の運営をしています。これまで野球の試合には参加が難しいなと思われていた重い障害のあるお子さんも、パソコンを使って指1本や視線だけで信号を送信し、遠くの球場のバットを振ることができるという仕組みです。今回参加して、関西在住の野球大会に出場した選手と再会できたことや、通りすがりの方が持参した野球盤で「視線入力」や「スイッチ」を体験して、「こんなに可能性が広がってるんだ!」と本当に新鮮な驚きを持ってくださったのがとても良かったです。他団体の活動も知ることでパワーをもらいました。

「世界にひとつだけのプライス」 チャリティーオークション

開催:2026年2月18日(水)~3月2日(月) 会場:阪急うめだ本店 9階 祝祭広場



「世界にひとつだけのプライス」チャリティーオークションとは?

阪急うめだ本店・阪神梅田本店の人気ブランドのご協力によりデザインされた、オリジナル衣装をまとったプライスドールをオークション形式で販売するチャリティーイベントです。

今回は阪神梅田本店で11体を先行展示。メイン会場の阪急うめだ本店祝祭広場には全53体のドールが並び、551件の入札で全て落札。落札金額から人形原価を除いた全額2,619,471円を、祝祭広場で同時開催のNPOフェスティバルに出展する子ども支援団体等15団体に等分に寄付しました。



レポート:H2Oサンタ事務局 森田英里



土曜日の午後はH2Oサンタ チャリティートークイベント

開催:2025年10月~2026年3月 会場:阪急うめだ本店 9階 祝祭広場



チャリティートークイベントとは?

毎週土曜日の午後3時に社会貢献団体のスタッフをお招きし、インタビュー形式で活動現場のリアルをお伝えするイベントです。



さまざまな催しが開催される祝祭広場

約400人が休憩できる祝祭広場の
大階段。そこから見えるイベントステ
ージで、病児・障害児・貧困・虐待などさま
ざまな子ども支援に取り組む社会貢献
団体の活動を毎週ご紹介しています。
特に社会貢献活動に興味をお持ちで
ない、お買い物途中の方々と、接点を持
つことが目的です。団体スタッフからは
「私たちが普段リーチできない方々に活
動を知っていただける貴重な機会」とお
喜びいただき、たまたま耳を傾けてくだ
さったお客様からは、「とても素敵な活動
を知ることができた。広めます」「子ども



当事者(双子・三つ子育児経験者)が登場することも

たちのために頑張って! 応援します」と
いったお声をいただきます。

また、トークの最後には楽しく学ぶ
「HANKYU子どもカレッジ」と連動し、
“NPOクイズ”を実施。正解者には財団
設立10周年記念ロゴデザインのクリア
ファイルをプレゼントしました。

地域の方々と社会貢献団体を“つな
ぐ”というH2Oサンタの理念を体現する
メインの活動です。ぜひ、一度足を運ん
でみてください。

レポート:H2Oサンタ事務局 蒲生祥子



H2Oリテイリンググループ 従業員ボランティアの輪が拡大

～大阪マラソンにて心をひとつに～



今回の活動では、2026年2月22日
(日)に開催された大阪マラソンの寄付
先団体である「認定NPO法人プール・
ボランティア」の給水所運営をサポート。
H2Oリテイリング、阪急百貨店、
阪急オアシス、阪急キッチンエール関西、
そしてイズミヤ・阪急オアシス労働組合
から、総勢21人のボランティアメン
バーが集結しました。

普段は異なる事業所で働く従業員

同士が、ひとつの目標に向かって手
を取り合う貴重な機会となりました。参加
者からは「グループとしての一体感
を感じながら、子ども支援につながる活動
をすることができ、非常に有意義な一日
となった」「来年もまた会いましょう!」と
の声が上がっており、支援の輪が着実
に広がっています。

レポート:H2Oサンタ事務局 森田英里



インフォメーション

PayPayでの寄付が始まっています

スマホで簡単に寄付できるPayPayを、イベントや店頭
に導入しました。特に毎週土曜日の午後3時に開催して
いるトークイベントでは、トークを聞いてくださったお客
様からその場で寄付につながっています。





誰もが誰かの

一般財団法人H2Oサンタは、H2Oリテイリンググループの
子ども支援をテーマに、地域社会にチャリティーの文化を

サンタになれる。

社会貢献団体です。
創造することを目的とした4つの活動を行っています。

1

社会貢献団体と連携した 啓発・募金活動

展示会やイベントで様々な団体を紹介し、寄付を募る活動を行っています。

2

寄付のためのイベント

寄付金を集めるための販売会・展覧会・ダンスイベントなどを開催しています。

3

ボランティア団体の仲介

ボランティア活動に参加していただける方々と社会貢献団体をつないでいます。

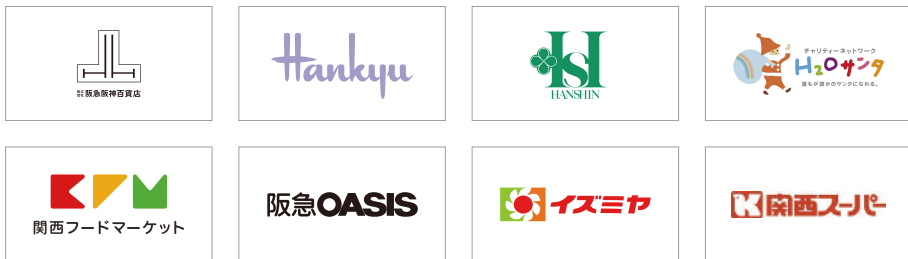
4

調査・発表

子どもたちに関連する諸問題を調査し、本誌などで紹介しています。

H2Oリテイリンググループ

百貨店、スーパーマーケットなど小売業を核とし、
地域のみなさまの生活に貢献する生活総合産業グループです。



賛助会員ご加入のお願い

H2Oサンタの活動を継続するために、みなさまの温かいご支援をいただけますと幸いです。
私たちの活動にご賛同いただき、お力添えをいただけますよう、お願い申し上げます。

お申込み		<p>【年会費】</p> <p>法人会員 — 1口 50,000円</p> <p>個人会員 — 1口 5,000円</p>	会員様 一覧	
------	--	---	-----------	--

寄付報告 2025年10月～2026年3月

寄付額合計 5,999,429円

チャリティーガイドやイベント、web募金で集まった寄付金を、55団体へ寄付いたしました。みなさまのご協力ありがとうございました。

寄付先団体
からのお声

公益社団法人アジア協会
アジア友の会
(きれいな水がない
アジア地域へ井戸を提供)

5基目の井戸が完成。
子どもたちに『時間』という贈り物を
みなさまからお寄せいただいた大切なお寄付により、5基目の井戸建設プロジェクトがインドにて完了いたしました。この地域の子どもたちにとって、水汲みは1日の大半を占める過酷な作業でした。井戸が完成した今、彼らは机に向かい、あるいは広場で駆け回り、こどもらしい時間を過ごしています。みなさまの善意が、確実にひとりの、そして地域の未来を変えています。



わたしの「できること」が、子どもたちの笑顔に

— 誰もが誰かのサンタになれる。 —



それは、7月実施の「活動報告会」で事務局長の『子ども食堂に通う子どもの中にはホールケーキを食べたことがない子どもがいる』という言葉に衝撃を受けた洋菓子メーカーである法人賛助会員様の「うちのケーキで子どもたちに喜んでもらえないか」という一言から始まりました。

12月には、阪急うめだ本店の洋菓子メーカー他の3社にもご協力いただき、20台のホールのクリスマスケーキを、ボランティアの方々と一緒に2施設へお届けすることができました。お届け当日は、子どもたちの笑顔がはじけました!“これならできる”と一歩踏み出していただいたことで実現し、たくさんの笑顔につながりました。

みなさまもできることから、誰かのサンタになりませんか？



みなさまの「できること」が、
子どもたちの笑顔になります。
ご相談は右記からお待ちしております。

一般財団法人H2O サンタ事務局
TEL:06-6313-9304
(10:00~18:00) ※火・日曜以外
Mail:h2osanta@h2o-retailing.co.jp

